

テナント内で使用するリソース容量管理

現在、テナント内に格納できる容量は **25TB** に限られていますが、これからの運用に於いて、可能な限り空き容量の確保を設定したり、自動で削除する管理機能の検討と付与が必要と推測します。

以下にその代表的な機能について、概要と実現案を説明します。

- (1) 長い間使われていない野良サイトなどを自動的に削除する機能 の付与
※プロビジョニングフローでTeamsのみ対応
- (2) サイトごとにストレージ上限設定 による運用促進
※コムチュア作成 PowerShellによる上限設定
- (3) バージョン履歴管理 方針の確定と運用促進
⇒ 従来のバージョン設定機能復活にて ドキュメントなどの不要なバージョン保持 を可能にする
⇒ 利用者が古いバージョン履歴を手動で削除するか、最新バージョン以外を自動削除する機能 の付与
※フォルダー単位での設定も可能(コムチュア作成のPnP版)
- (4) 古い陳腐化したファイルを別のファイルサーバーなどへ退避する機能 の付与
※横嶋さん作成 Power Automate で実現

(1) 野良サイトの削除 ⇒ 管理センター – Azure Active Directory – グループ設定 – 有効期限

Teamsで作成されたサイトコレクションを始め、「Microsoft365グループ」で管理・作成されているサイトは、SharePoint Onlineでサイトの作成(払出し)とは異なり、連携された色々なOffice(Outlook、Outlook On The Web、Outlook Mobile、SharePoint、Planner、Teams・・・)、さまざまなツールから作成されてしまいます。 ⇒ [サイト一覧棚卸.xlsx](#)

- Outlookでグループを作成する
- Microsoftチームを作成する
- SPOでチームサイトを作成する
- ファミリグループを作成する
- Yammer でグループを作成する
- Plannerでプランを作成する

しかしながら、作成されたサイトは一定期間使われた後、野良サイトとして残存し、テナントのリソースとして残るため、削除などの配慮が必要です。

これは、「Microsoft365グループの有効期限ポリシー」機能にて有効期限を設定する事で対応可能です。

・使われているサイトはグループの有効期限が切れる約 35 日前に自動的に更新される

・使われていない(ユーザー アクティビティがない)野良サイトのグループは削除される

この設定でグループの有効期限が切れてグループが削除されると、削除の 30 日後に、グループのアプリ (Planner、サイト、チームなど) のデータが完全に削除されます。 但し、訴訟ホールドにあるグループ メールボックスは保持され、完全に削除されることはありません。

⇒ [New-AzureADMSGGroupLifecyclePolicy -GroupLifetimeInDays 365 -ManagedGroupTypes All -AlternateNotificationEmails emailaddress@contoso.com](#)

【Microsoft 365 グループの有効期限ポリシーを構成する】 [Azure AD Premium ライセンスを所有している必要](#) ⇒ [プロビジョニングフローでTeamsのみ対応?](#)

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/enterprise-users/groups-lifecycle>



https://entra.microsoft.com/#view/Microsoft_AAD_IAM/GroupsManagementMenuBlade/~/_Lifecycle/menuId/General

(2) ストレージ上限値の設定 ⇒ 管理センター – SharePoint – サイト – アクティブなサイト – ストレージ上限

テナントの容量は現在、25TBですが、Teamsサイトのストレージ上限値は、初期値(25TB)になっており、2023/02/28時点で野良Teamsサイトを含めると、2,040サイトで5TBのリソースを使用しています。SharePointサイトはストレージ上限値を設定し管理していることから同一のテナントリソースを使うTeamsサイトもサイトコレクションごとにストレージ上限値を設定・管理が必要と考えます。以下に、手動での設定方法を示します。

尚、サイト数が膨大な事から、PowerShellによる一括設定の検討も考慮が必要です。※Teamsはプロビジョニングフローで対応

【PowerShell】

指定したサイトの容量を 100GB に、警告レベルを 50GB に設定する PowerShellのサンプルです。

```
Set-SPOSite -Identity [URL] -StorageQuota 102400 -StorageQuotaWarningLevel 51200
```

(3)「ライブラリ」のバージョン履歴管理 ⇒ 【対策案①+③最終版】PnPバージョン設定 + バージョン履歴削除.ps1を参照

昨年頃より、「SharePoint Online」の世代管理の設定内容が変更されました。

以前：ブラウザーより「ライブラリ」の設定画面で設定が可能管理無し、バージョン管理なし、バージョン設定「1～」

現在：ブラウザーより「ライブラリ」の設定画面で設定が可能管理無し、バージョン設定「100～」

この設定最小値だと、サイズの大きい資料や画像ファイルを入れ替える度に世代管理され、テナント全体のリソースの空き容量を頻拍する事が予想されます。

設定・バージョン設定

コンテンツの承認
新しいアイテムまたは既存のアイテムへの変更が承認されるまで下書きの状態にしておくかどうかを指定してください。 [承認の要求に関する詳細](#)

送信されたアイテムに対してコンテンツの承認を必須にする
☐ はい ☒ いいえ

ドキュメントのバージョン履歴
このドキュメント ライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成するかどうかを指定してください。 [バージョンに関する詳細](#)

このドキュメント ライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成する
☐ バージョンを管理しない
☒ メジャー バージョンを作成する
例: 1. 2. 3. 4
☐ メジャーとマイナー (下書き) バージョンを作成する
例: 1.0. 1.1. 1.2. 2.0

次の数のメジャー バージョンを保存する:
2

☐ 次の数のメジャー バージョンの下書きを保存する:
1

下書きアイテムのセキュリティ
下書きとは、マイナー バージョンまたは承認されていないアイテムです。このドキュメント ライブラリの下書きを表示できるユーザーを選択してください。
[下書きを表示して編集できるユーザーの指定に関する詳細](#)

このドキュメント ライブラリ の下書きアイテムを表示できるユーザー
☒ アイテムを閲覧できるすべてのユーザー
☐ アイテムを編集できるユーザー
☐ アイテムの作成者およびアイテムを承認できるユーザー

チェックアウトを必須にする
このドキュメント ライブラリに変更を加える前に、ユーザーがドキュメントをチェックアウトする必要があるかどうかを指定してください。 [チェックアウトの要求に関する詳細](#)

ドキュメントを編集する前に必ずチェックアウトする
☐ はい ☒ いいえ

OK キャンセル



設定・バージョン設定

コンテンツの承認
新しいアイテムまたは既存のアイテムへの変更が承認されるまで下書きの状態にしておくかどうかを指定してください。 [承認の要求に関する詳細](#)

送信されたアイテムに対してコンテンツの承認を必須にする
☐ はい ☒ いいえ

ドキュメントのバージョン履歴
このドキュメント ライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成するかどうかを指定してください。 [バージョンに関する詳細](#)

このドキュメント ライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成する
☒ メジャー バージョンを作成する
例: 1. 2. 3. 4
☐ メジャーとマイナー (下書き) バージョンを作成する
例: 1.0. 1.1. 1.2. 2.0

次の数のメジャー バージョンを保存する:
100

☐ 次の数のメジャー バージョンの下書きを保存する:
1

下書きアイテムのセキュリティ
下書きとは、マイナー バージョンまたは承認されていないアイテムです。このドキュメント ライブラリの下書きを表示できるユーザーを選択してください。
[下書きを表示して編集できるユーザーの指定に関する詳細](#)

このドキュメント ライブラリ の下書きアイテムを表示できるユーザー
☒ アイテムを閲覧できるすべてのユーザー
☐ アイテムを編集できるユーザー
☐ アイテムの作成者およびアイテムを承認できるユーザー

チェックアウトを必須にする
このドキュメント ライブラリに変更を加える前に、ユーザーがドキュメントをチェックアウトする必要があるかどうかを指定してください。 [チェックアウトの要求に関する詳細](#)

ドキュメントを編集する前に必ずチェックアウトする
☐ はい ☒ いいえ

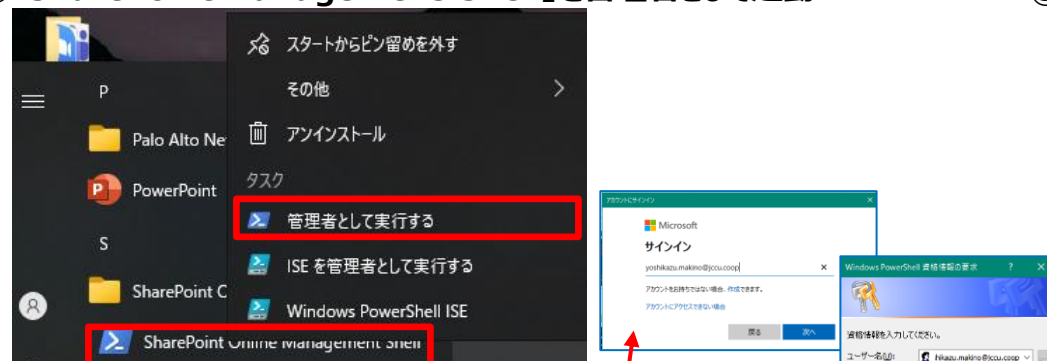
OK キャンセル

野良サイト削除・バージョン管理・陳腐化ファイル退避について

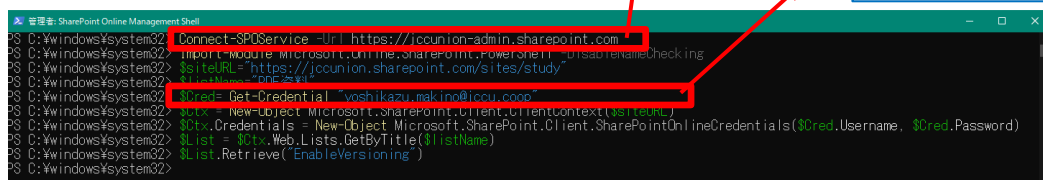
【対策案①】バージョン管理設定部の変更 ⇒ リスト・ライブラリの設定 – バージョン設定

一昨年頃より、バージョン設定は、従来の設定ができなくなり、世代管理も最小100世代の設定に変わってしまった事で、多くのファイルを管理している動画や画像ライブラリへファイルをアップロードを繰り返す操作にてテナントで管理しているリソース容量が頻拍してしまいます。よって、従来の詳細なバージョン設定を有効にする設定で、必要最初限のバージョン管理ができる操作手順と PowerShell について説明します。

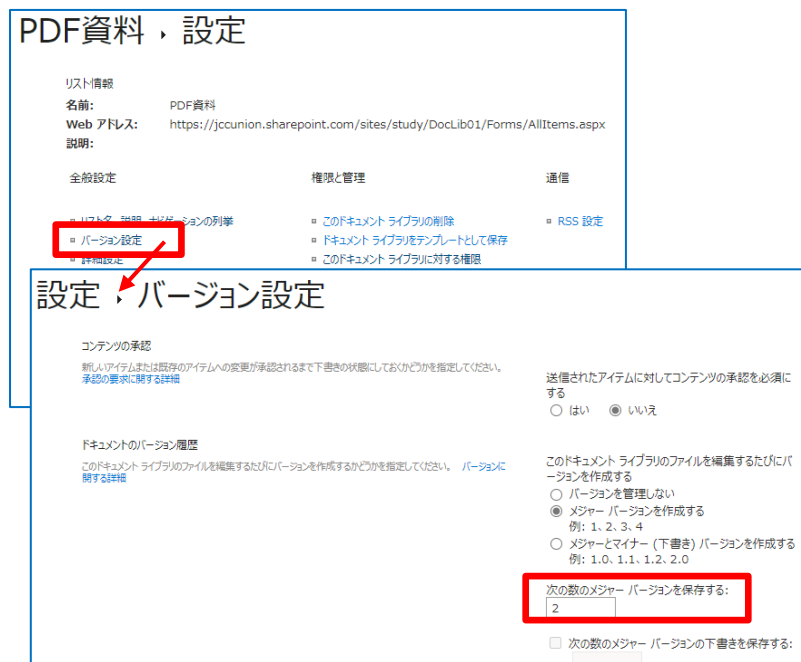
①「SharePoint Managemens Shell」を管理者として起動



②以下のコマンドレットを入力



③[設定]⇒バージョン設定 画面で任意の保持するバージョン数の入力・設定できる事を確認



【対策案①】バージョン履歴数を変更.ps1

https://jccunion.sharepoint.com/sites/study/_layouts/15/LstSetng.aspx?List={2BC39D3F-7E78-466F-ADD8-0B3F78687CAF}

https://jccunion.sharepoint.com/sites/study/_layouts/15/LstSetng.aspx?List={E1506D0E-E519-4363-967F-5C12934F81F2}

3/7 テクバンより掲示された管理者マニュアルに従って環境設定後、再検証実施予定・PowerShellの実行環境

・PowerShell用Proxy設定・PowerShell用Proxy設定

3/9 SharePoint Management Shellでの検証以外のWindows ISEでPnP実行の検証に切替

【対策案②】SharePoint Designer 2013 でバージョン管理の初期設定

バージョン管理をしない設定「バージョン設定=1」にする事で履歴ファイルを保持しなくする設定例案は、「SharePoint Designer2013」で任意のライブラリをクリック(選択)し、「設定」部の「☒アイテムを編集する事」のチェックを外し、「☐アイテムを編集する事」とすれば設定完了です。

このドキュメントライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成する

☒ メジャーバージョンを作成する
例: 1.0, 2.0, 3.0

☐ メジャーとマイナー(下書き)バージョンを作成する
例: 1.0, 1.1, 1.2, 2.0

次の数のメジャーバージョンを保存する:
500

この画像ライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成する

☒ バージョンを管理しない

☐ メジャーバージョンを作成する
例: 1.0, 2.0, 3.0

☐ メジャーとマイナー(下書き)バージョンを作成する
例: 1.0, 1.1, 1.2, 2.0

次の数のメジャーバージョンを保存する:
500

【対策案①+③最終版】PnPバージョン設定+バージョン履歴削除.ps1

<# 作業手順 #>

初回だけ Uninstall-Module -Name SharePointPnPPowerShellOnline -AllVersions -Force

初回だけ Install-Module -Name PnP.PowerShell

PSファイルにPnPでバージョン数設定 \$MajorVersions

全バージョン履歴削除する処理を記載 \$fileurl

ソースコードをPowershell ISEに貼付し実行

<# Parameters #>

\$site = "https://jccunion.sharepoint.com/sites/Study2/S02"

\$listname = "22.ライブラリ履歴削除検証①"

\$fileurl = "DocLib22/フォルダー01/GW刷新_MicroSoft365管理センターへの見方.pptx"

\$MajorVersions = 2

<# サイト接続 #>

\$connect = Connect-PnPOnline -Url \$site -UseWebLogin

\$list = Get-PnPList -Identity \$listname | Select Title, Url, EnableVersioning, MajorVersions

if (\$list.EnableVersioning -eq \$true) {

#ライブラリのバージョン設定

Set-PnPList -Identity \$listname -MajorVersions \$MajorVersions

write-host "Set-PnPList"

#ファイルの全バージョン削除

Remove-PnPFileVersion -Url \$fileurl -All -Force

write-host "Remove-PnPFileVersion"

}

<# 接続切断 #>

Disconnect-PnPOnline -Connection \$connect

このドキュメント ライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成する

● メジャー バージョンを作成する

例: 1、2、3、4

○ メジャーとマイナー（下書き）バージョンを作成する

例: 1.0、1.1、1.2、2.0

次の数のメジャー バージョンを保存する:

バージョン履歴

すべてのバージョンを削除

番号 ↓ 更新日時

4.0 2023/03/09 16:17

3.0 2023/03/09 16:17

2.0 2023/03/03 13:47

タイトル

野良サイト削除・バージョン管理・陳腐化ファイル退避について

バージョン履歴

すべてのバージョンを削除

番号 ↓ 更新日時

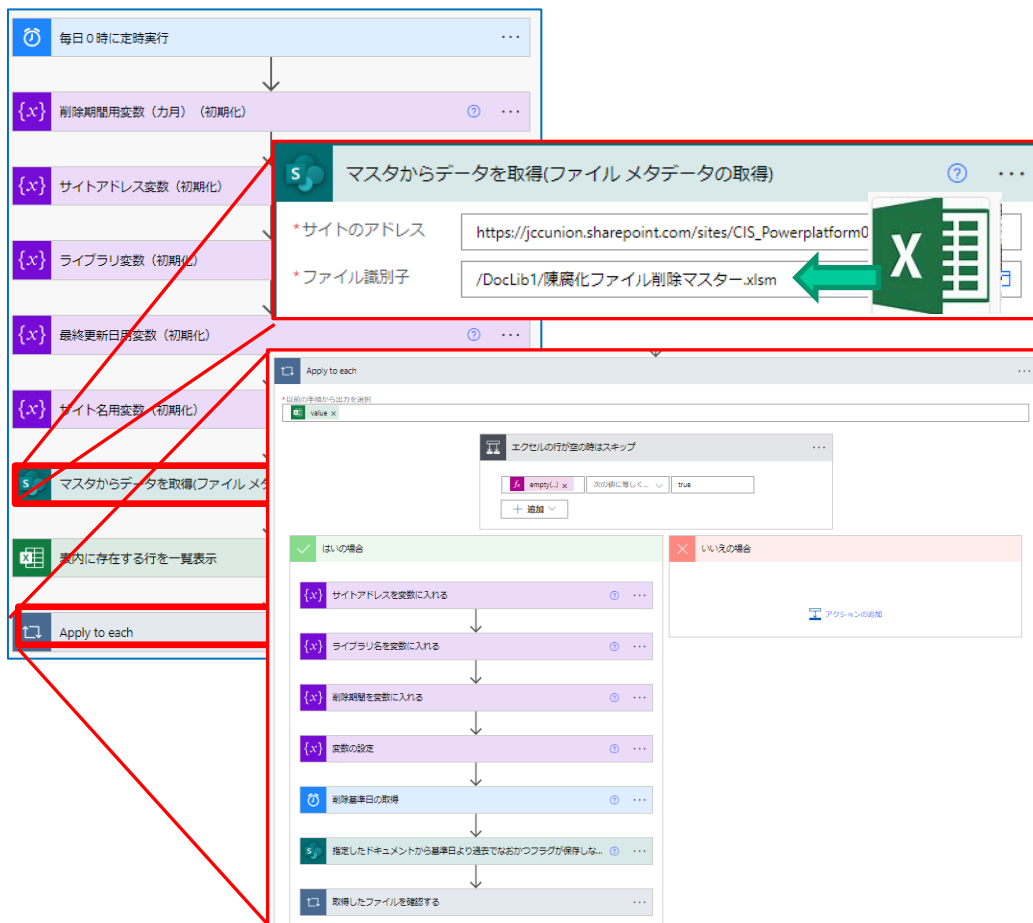
4.0 2023/03/03 13:46

タイトル

MicroSoft365管理センターへの見方

(4) 陳腐化ファイル退避 ⇒ 横嶋さんが作成したAutomateを採用

長い間更新されていないファイルや稀にしか参照しないファイルは、アーカイブファイルとしてテナントとは別のファイルサーバーへファイルを退避する機能です。この機能を実現するためには、ドキュメントライブラリに、保存年限、或いは**削除有無+削除予定日**などの管理列を追加し、定期的にSharePointサイト内に展開されているライブラリを巡回し、退避条件にあったファイルは別のファイルサーバーなどへ**ファイル移行する処理を「Power Automate」で作成し、実行する事で対応が可能です。**



【部署リスト・ライブラリなど】		
タイトル	削除有無	削除予定日
アイテム/ファイル01	無	
アイテム/ファイル02	有	2022/8/29
アイテム/ファイル03	有	<指定無し>
アイテム/ファイル04	有	2022/8/30
アイテム/ファイル04	有	2022/9/1

タイトル	削除有無	削除予定日
アイテム/ファイル02	有	2022/8/29
アイテム/ファイル04	有	2022/8/30